

感動一点の場

『土』

1959 年 小川原 脩 画



年に一度、倶知安の町や羊蹄山麓、後志にゆかりのある作家たちが集う麓彩会展。今年もその季節がきて、それぞれの個性を追求した絵画作品がお目見えする。では、麓彩会が発足した60年前、小川原脩はどのような作品を描いていたのだろう。

小川原は1958年頃から、倶知安の峠下遺跡の発掘に関わるなど考古学の世界に没頭し、遺跡・遺物、そして地面そのものをモチーフに取り込んでいた。1960年の第3回麓彩会展目録には、「土について」という題の連作3点の出品が記されている。同時期の著述文では、黒曜石の石器について、打ち割られて創り出される鋭利で繊細な形を「マイナスの造形」と呼び感嘆の言葉を記している。

薄く、慎重に土を剥いでゆくと現れる、古代の生活の跡。本作「土」は反対に、絵の具を重ねて厚みを出し、激しい凹凸を作っている。赤いレンガのように日に焼けた土、石器、土器片、それらを掻き出した痕跡まで、発掘現場の地表面を再現しているかのようだ。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

一つぶらな眼をしたイモムシ

425 回

8～9月になると、シラカンバの木でよく見かけるイモムシがいる。チョウやガの幼虫に似ているが、カラフトモモブトハバチという“葉蜂”の仲間の幼虫で、名前の通り植物の葉を食べて育つ。体は大きく45ミリほどで、カンバ類の葉をよく食べ、時に街路樹の葉を食べ尽くすこともある。クリーム色の頭部と黄緑色の体に通る一筋の黒いラインが印象的だ。チョウやガの幼虫との見分け方のポイントが2つある。1つ目はつぶらな眼。チョウやガの幼虫の眼はあまり目立たないのだが、カラフトモモブトハバチの眼は左右でやや離れてついており、まるで何かのキャラクターのようだ。2つ目は腹脚と呼ばれる脚の数。チョウやガの場合は最大で4対であるのに対し、ハバチは5対以上ある。



▲カラフトモモブトハバチの幼虫（左）と成虫（右）

基本的に無害な昆虫だが、幼虫の生態で気になることが1つある。それは幼虫を触ると体から透明な液体を勢いよく出してくることだ。しかし、毒性はなく、匂いもかぶれることもない。そして、液体を出す意味は分かっていないのだ。一体、何のために出しているのだろう。きっと何か意味があるはずなのだが…。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

第3回ふるさと探訪（観察会）「初秋、植物の営みを見る神仙沼・長沼散策」

グリーンシーズン終了間近、プチ縦走をしながら初秋の植物観察をします。

講師：村上尚美氏（自然ガイドツアー心と～cocowa～主宰） 日時：9月22日(土)8時～15時 定員：先着12名
寺子屋ミュージアム「木の実と動物のオイシイ関係」（小中学生対象）

ドングリの実のなる木と動物の関係について学びながら、ドングリの実を調理して食べてみましょう。

※ナッツ（ドングリ）、小麦粉、卵、牛乳、バターなどのアレルギーを使用します

講師：村上尚美氏 日時：9月29日(土)13時30分～16時30分 定員：先着15名 参加費：250円（保険代）

いずれも集合は倶知安風土館、開催3日前までに倶知安風土館に電話で申し込みください。

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイマージュⅡ」

「遙かなるイマージュⅠ」に続き、小川原脩の全年代の代表的作品を網羅しながら紹介します。

会 期：9月29日(土)～平成31年1月20日(日)

■企画展示

しりべしミュージアムロード展「花さんぽ」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する5つのミュージアムの共同企画展。

会 期：開催中～9月24日(月)

第60回麓彩会記念展

1958（昭和33）年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により設立された「麓彩会」。公民館で開催された第1回展から途切れることなく回を重ね、今年で60回を迎えます。記念展の今回は、規模を拡大し第1展示室で開催します。

会 期：9月1日(土)～12月16日(日)

麓彩会展

アート・イベントのお知らせ

■アーティスト・トーク

「第60回麓彩会展ワンポイント・トーク」

麓彩会展オープニングの日に出品作家の皆さんに、制作の背景や作品への思いなどをお聞きします。

日 時：9月1日(土)10時～12時

お話し：麓彩会展出品作家の皆さん 会 場：第1展示室（無料）

■ミュージアム・コンサート

「しりべしミュージアムロード・コンサート『華麗なるヴァイオリンとチェロの世界』」

日 時：9月2日(日)15時～15時40分

出 演：VirtuROSE ヴィルトゥローズ

能登谷安紀子さん(ヴァイオリン) 中島杏子さん(チェロ)

会 場：当館ロビー（無料）

■土曜サロン

アート探訪〈みて・きいて〉19「アメリカの美術館1」

日 時：9月8日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■アート・トーク

「近代絵画の父 セザンヌ」

日 時：9月15日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

「遙かなるイマージュⅡ」

日 時：9月29日(土)10時～10時30分

お話し：沼田 絵美（当館学芸員） 会 場：第2展示室（無料）

■アート・シネマ館

「ゾラの生涯」1937年/116分/アメリカ

日 時：9月22日(土)14時～16時10分

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円（400円）

高 校 生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

9月の休館日 毎週火曜日、

26～28日は臨時休館

画家の目

久しぶりの釧路。もう十年近く前、時には零下20度を越える中、毎朝30分ほどかけて釧路芸術館へと通っていました。幣舞橋、河口へ向かって静かに流れる釧路川、そして周囲の建物が織りなす壮大な景色は、当時と変わることがありません。相変わらず、大きな自然に包み込まれる安心感と懐かしさのようなものを感じます。

多くの画家がこの魅力にとらわれています。小川原脩もその一人でした。もしかしたら、そうした繊細で鋭敏な画家の作品を通して、自分はこの光景を見ているのではないかと、時に感じます。実際、ブルターニュの港やベネチアの海岸などの制作現場を訪れて、少しでも画家の心に近づこうとしたことさえあったものですから。

館 長 柴 勤

小川原脩記念美術館友の会

「音楽とワインの夕べ」

日 時：9月29日（土）18：00 開演

会 場：当館ロビー

出 演：倶知安プラスオーケストラ

料 金：一般1,300円、小川原脩記念美術館

友の会会員1,000円

■小川原脩記念美術館友の会 高橋

☎090-3396-6022